

科目名	単位数	学年	クラス
国語表現	3単位	3学年	3年B型

1、概要及び目標

国語で適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。

2、評価の観点及び評価方法

評価の観点

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く・書く能力	読む能力・国語的な知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・国語に対する関心を深め、国語を尊重しその向上に努めているか。 ・自ら進んで表現し、伝え合おうとしているか。 ・様々な表現についてその効果を吟味し、自分の表現や推敲に役立てたりして、話したり文章にまとめようとしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを持ち、論理的に意見を述べているか。 ・相手の考えを尊重して話し合っているか。 ・目的や場に応じて、言葉遣いなど表現を工夫して話しているか。 ・書くために必要な情報を収集、整理しているか。 ・目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して書いているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の表現の特色について理解を深めているか。 ・語句や語彙の成り立ちについて理解を深めているか。 ・常用漢字が使えるか。 ・現代社会における言語生活の在り方や言語表現の役割などについて理解を深めているか。
評価方法	評価方法	評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動に対する参加姿勢 ・提出された課題 (自己評価など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会・報告会・討論会での状況 ・提出された課題 ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・提出された課題 ・小テスト (必要に応じて学年末考査を行う)

上記の評価の観点を踏まえ次のような配分で総合評価を行う。

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く・書く能力	読む能力・国語的知識・理解
出席状況、授業態度、取組意欲、課題の提出等	発表や提出物等の内容による。	提出物、小テスト等による。
50%	30%	20%

3、使用教科書教材等

- ① 教科書 『国語表現 改訂版』 教育出版
- ② 副教材 『国語表現改訂版』 準拠ノート
- ③ 各種ワークシートなど

4, 授業の展開と形態

令和5年度は、2クラス3展開で授業を行う。

5, 学習方法

- ①「表現」に必要なのは技術だけではなく、表現者としての姿勢です。社会的な事象に対して問題意識を持ち、自分なりに考えていこうとする態度や習慣が必要です。
- ②日常生活の中でことばに対する感覚を磨きましょう。
- ③語句・語彙や常用漢字の読み書きに習熟するための基本は読書です。本を読みましょう。

6, その他：履修上の留意点等

- ①ファイルを用意すること。学習で使用した資料等を保存します。
- ②課題・提出物等は期限内に必ず提出すること。提出されないと評価ができません。
- ③読み手や聞き手に回る場合、相手の意見や立場を尊重するように心がけてください。
- ④教科書以外の自主教材（新聞の活用など）を使用することがあります。
- ⑤意見文・読書感想文・自分史は必須の課題です。未完成の場合は単位保留となります。

様式3 「国語表現」シラバス 年間計画

月	週	配当時間	単元名 小項目	学習内容	到達目標 (指導目標)	評価								
						発表、提出等	テスト等							
4	2 3 4	6	コミュニケーションのため に 文章表現の基礎	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介メモ作成 原稿用紙の使い方の基礎を学ぶ。 自己の進路に応じて志望理由をまとめる。 意見文を書く 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションのための土台をつくる。 文字の表記の仕方からわかりやすい文章の書き方まで、文章表現に必要な基礎力について確認する。 原稿用紙の誤答例を用いて、正しい表記の仕方を理解する。 各種のトレーニングをとおして文章の「型」を習得し、論理的文章を書くための基礎力を養成する。 「小論文テーマ一覧」を参照することで自己の意見文テーマの幅を広げる。 発声・発音に始まり、音読・朗読やスピーチ・紹介など、声を発する具体的な場面を想定した学習をとおして、音声言語による表現方法の基礎を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 素材メモ 原稿用紙 学習シート 素材メモ 構想メモ 自己評価表 相互評価表 	課題提出							
								1 2 3 4	7	小論文 I	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸の仕組みと腹式呼吸の方法で声を出す。 文を把握し音読の仕方、特に声の高低や間の工夫について学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 見文テーマの幅を広げる。 発声・発音に始まり、音読・朗読やスピーチ・紹介など、声を発する具体的な場面を想定した学習をとおして、音声言語による表現方法の基礎を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 原稿用紙 自己評価表 相互評価表 	課題提出
	7 1 2 3 4	9	人とつながる言葉	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶が人間関係や社会生活にどのように役立つかまとめる。 模擬電話の対応を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の性質や言葉と人間との関わりについて理解し、言語生活や具体的な表現活動に役立て、人間関係を維持・構築していこうとする認識を養う。 敬語を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 原稿用紙 自己評価表 相互評価表 	課題提出							
								7 1 2 3 4	4	コラムを書く本を作る	<ul style="list-style-type: none"> 読書感想文を書く 読書を通して、自分が感じたことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書選択し原稿用紙3枚以上で感想文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 原稿用紙 	課題提出

9	1	8	面接社会との接点	・自己紹介と模擬面接を実演する。	・自己を知り、場面を判断し相手に配慮して、自分の意見を述べるという面接の学習をとおして、社会への参加能力を育てる。	情報カード 自己評価表 レポート	章ごとに課題を提出		
	2			プレゼンテーションの方法	・面接シートの作成	情報の視覚化の方法を知り、それらを効果的に用いたプレゼンテーションをの技術を身につける。		プレゼンテーション資料 自己評価表 相互評価表	
	3				・ジョハリの窓				・スライドを作成することを通じ、必要な情報を収集・整理する技術を育てる。
	4				(1) 課題の設定				
10	1	8	(2) 文献、インターネット等による情報収集		・パンフレットを作成することによって、伝えたいことを明確にし、相手に適切に伝えるための技術を身に付ける。		ポップ 自己評価表 相互評価表		
	2		(3) 情報の整理	・課題文を的確に理解し、自らの意見を明確にして小論文にまとめる。					
	3		・検証			・自分を客観的にとらえなおし、これまで関わってきた人々や物事とのつながりを理解する。			
	4		(4) スライドの作成					・卒業前にあたって、今後の自分を想起する。	
11	1	7	の収集		・準備シートをまとめる。		学習プリント 原稿用紙		
	2		(2) パンフレットの作成	準備シート 原稿用紙					
	3		(3) パンフレットの展示会			準備シート 原稿用紙			
	4		・漢字・語句の問題を解く。					準備シート 原稿用紙	
12	1	9	課題型小論文を書く。		準備シート 原稿用紙		課題提出		
	2		小論文Ⅱ	自分史を書く					
	3					19			小論文レポートを書く 自分史
	4							1	
2	1	自分史を清書							
3			1	自分史を清書					
4					1	自分史を清書			